

埼玉県

図書館だより

第 6 号

昭和55年11月15日

編集 埼玉県立図書館
広報委員会

発行 埼玉県立浦和図書館
館長 石川 正明
浦和市高砂 3-1-22



も く じ

第二回「本を読む県民のつどい」	2～3
移動図書館、30周年	4
「あすの図書館をめざして」	5
各館だより	6～9
図書館めぐり（所沢市立図書館）	10
図書館の周辺	10
本のひろば（雑誌の複製版）	11～12

井伏鱒二作「武州鉢形城」の舞台。（大里郡寄居町）

この小説の中で、鉢形城跡は次のように描写されている。

『翌朝、九時ごろに昨晚の運転手が迎へに来て城跡に案内してくれた。川に面する側は崖つづきになってゐる。崖の高さは百七十八尺ぐらいだと運転手が云った。橋を渡って坂をのぼって行くと、兩岸が百七十八尺もの絶壁になっている深沢川の溪流を渡る橋がある。その橋の直下の淵で銚子をもつて魚を突いている男があつた。大型の魚籠のなかに白く見える魚が入っていた。ここでは淵のことを釜と云い、深沢川には四十八の釜があるそうだ。（中略）』

運転手は道ばたの桑畑を指差した。ありふれた桑畑である。桑の葉はみんなかさかさに枯れかけで、早くあちへ行けと私に云うかのやうに殺風景に見えた。

ここからまた道が上り坂になっている。ところどころに石漕で基礎をとった土塁の残欠が見え、少し高みの諏訪曲輪の跡にのぼると線路があつて電車が通りすぎた。城内を八高線が通過しているわけである。』



第二回「本を読む県民のつどい」

永井路子氏講演会

盛況裡に終る

埼玉県教育委員会、埼玉県立図書館、埼玉県図書館協会主催「第二回本を読む県民のつどい」は、十月七日、県立久喜高校講堂で開催されました。今年は特に県立久喜図書館の開館を記念して、久喜市が会場と決められたものです。

前評判が高く、先着五百名としてあったため、午前中から入場者があいつぎました。なかには飯能市や東松山市から貸切りバスを仕立てて乗り込む団体も幾つかあって、開会のときには、補助椅子を使って六百四十名ほどの方々で、会場は溢れるような熱気に包まれました。

午後一時、山口久喜図書館長のあいさつで開会し、県教育長に代って石川県立浦和図書館長のあいさつ、上野県図書館協会のあいさつがあったあと、読書感想文入選者の表彰が行われました。

読書感想文は埼玉県教育委員会主催によって、七月三十一日締切り

で県内から募集されたもので、応募点数は七十五点、埼玉県教育委員会と埼玉県図書館協会等の関係者及び文芸評論家の曾根博義氏、詩人の弓削紗子氏、歌人の荻野須美子氏等によって審査が進められました。審査の結果、入選となった二十点の作品は、この日に配布された「読書感想文集」に集録されています。

表彰状及び記念品は、県教育長に代って青木県立川越図書館長から贈られました。つづいて入選作品のうちの一編、「日本の叛乱」の訳者河野司氏へが、作者の関根和美氏によって朗読されました。

審査の講師は審査員の弓削紗子氏によって行われ、応募者の多くが家庭の主婦であったこと、それだけに、生活密着型の作品が多く、テーマの選択による優劣が目立ったこと、筆者の考え方、生活環境までも踏まえて、消化して取り組む必要があったのではないかと、というよう

(にぎわう
受付風景)

ことを述べられました。そうしたなかで、さすがに入選の作品には、人間性を鋭く追求したものや、視点のユニークなものがあった、非常にすぐれていた、という講評でした。

表彰式のあと、県知事代理の柴崎春日部県民センター所長の祝辞、葛川久喜市長の祝辞をいただき、来賓の紹介、祝電披露があった、第一部

(会場いっぱい
集まったお母さんたち)

の行事を終了、休憩のあと、記念講演に移りました。

記念講演は、「北条政子と源家三代」と題して、午後二時から約一時間半にわたって行われました。

講師の永井路子氏は大正十四年東京生れ、昭和十九年に東京女子大学文科を卒業して小学館に入り、婦人雑誌の編集などにあたった方です。

本を読む県民

埼玉県立久喜図書館

(協会の
あいさつ)

史小説を書き、昭和二十七年に「三条院記」で「サンデー毎日」の懸賞小説に入選、三十六年には退社して作家生活に入られました。三十九年「炎環」によって第五十二回直木賞を受賞、その後も次々に歴史小説を発表して独自の地歩を築いてこられました。特に昨年NHKで放映された大河ドラマ「草燃える」の原作者として脚光を浴び、いよいよ多忙な作家です。このたびは特別にお願いして、講演をうかがう機会を得ました。

「北条政子と源家三代」という演題はこの作家に最もふさわしく、豊富な史料を駆使して、日本歴史の激動期であった鎌倉時代を生き抜いた一人の女性、北条政子の人間像を生きいきとお話しになりました。母親

(読書感想文
入選者のみなさん)

第2回本を読む県民

埼玉県立久喜図書館



(演壇の永井路子氏)

方として、たどり直して見る必要があるのではないかと。不幸な死を遂げなければならなかった子供たちについて、母親としての愛情が深過ぎ、かえって悲劇の種をまいたようなところがあったとも話されました。

「本を読む県民のつどい」はこのようにして終り、橋本県立熊谷図書館副館長のあいさつをもって閉会となりました。

女学校時代を古河市で過ごされたという永井氏は、このあと、古河公方足利政氏の墓所のある久喜市内の名刹、甘棠院を訪問されましたが、図書館を媒体として、読書運動の環をひろげようという、県立図書館四館の協力による「第二回本を読む県民のつどい」は、こうして有意義に終了することができました。

※読書感想文の入選者

(敬称略・順不同)

菅原宣夫(越谷市)・田中富美子(川越市)・内田伸子(熊谷市)・柳川利光(戸田市)・酒巻應和(熊谷市)・古本洋子(坂戸市)・小久保松絵(所沢市)・徳永祥子(坂戸市)・河田邑子(浦和市)・根岸雅史(熊谷市)・木幡幹枝(栗橋町)・久保珠恵(川越市)・田沼京子(春日部市)・駒井朋子(浦和市)・関根和美(久喜市)・漆原恵美(与野市)・足立キョウ子(三芳町)・桑山和子(飯能市)・並木美喜子(毛呂山町)・安原敦子(越谷市)

県下全市町村に移動図書館を

埼玉県移動図書館30周年記念式典開かる

去る9月13日(土)午前10時から、埼玉県教育委員会と埼玉県移動図書館運営協議会の主催により、埼玉県館小ホールにおいて記念式典を、また午後1時から、平安閣において記念祝賀会が開かれた。式典及び祝賀会には、関東地区公共図書館をはじめ、県内移動図書館関係者、およそ四〇〇名の参加者があった。

席上、主催者あいさつに立った関根教育長は「当初、一台の移動図書館で灯された文化の光は、テレビもないころでもあり、町や村では大変歓迎された。それから今日まで30年間経過し、県立図書館を東西南北に設置され、地域のネットワークの拠点として機能することとなった。そこで、これらの公共図書館の整備は、市町村に主力をそそぐ時期にきている。そのためにも、全市町村に移動図書館を」

「めざして関係自治体とも真剣に取り組んで行きたい」と結んだ。

また、埼玉県移動図書館運営協議会の高橋会長は「創立当時は、県財政は苦しかったため県立移動図書館車購入では、県費60%、町村負担40%で建造し、図書購入においても、それぞれ半分ずつ負担して運営を行ってきた。こうした苦しかった時代を乗り越えて、現在の埼玉県の移動図書館活動が続いている。これは、数多くの駐車場主任の方々ボランティアとして奉仕的役割をになってきたからできたのである。

県立の移動図書館では、月1回位の周期でしか巡回できないので、是非、全市町村で移動図書館を始めていただきたい。そして、県立の移動図書館は、そろそろ無くなる方向で検討し、県立は協力車なり文化振興車に切替えて、市町村をバック・アップすることが望ましい」と結んだ。

つづいて、来賓祝辞で畑知事は「生活水準の向上とあわせて余暇時間も増大していることから、県民からの情報に対する要求は増加している。地域文化の担い手として移動図書館の果たす役割は大きく、県民文化、県民教育の充実に取り組んでいただきたい」とあいさつ。



(あいさつする畑知事)

その後、四名の来賓から、力強い励ましの言葉を頂戴した。

つづいて、長年、移動図書館の発展、向上に貢献された方々の表彰及び感謝状の贈呈が行われた。

第二部の記念講演では「公共図書館三十年の中の移動図書館」と題して、浦和市立図書館長鈴木四郎氏が講演する。「まず、模索期(26、37年)では、それぞれの所在地の市立図書館代行の閲覧中心の奉仕形態を取っていた県立図書館を、移動図書館を採用することによって、その奉仕網を県下一円に拡大した。その頃としては、県立図書館の本質的な業務として位置づけられていた。次の飛躍期(38、45年)では、県立の移動図書館は、財政措置不足から密度の薄い形式的巡回となったため、かなりの県で旧来の貸出文庫と変らない団体貸出に活路を見出すようになった。一方、市町村の移動図書館は、台数において、県立と逆転する時期である。次の展開期(46、54年)では、県立の移動図書館は、その存続を検討し意味づけを模索している時期であり、市町村の移動図書館は図書館組織(本館・分館・移動図書館)の中での移動図書館活動を考えるときに来ている」と講演し、今後の移動図書館活動の方向性を示唆して終了した。

先ほどから「全市町村に移動図書館を」と述べられていたが、移動図書館の持つ特性からして、本質的には市町村で整備することによって、密度の高い、面としてのサービスが可能である。したがって、市町村の役割として、みずからその設置を行い、運営するなかで、地域住民の学習要求を的確に把握し、地域住民の積極的な学習への意欲を触発することが、図書館振興のなかめである。

県立の移動図書館は、これらに対して資料援助を行うとともに、連絡協力車の運行により、図書館間を結び、図書館協力の役割を持っている。

あすの図書館をめざして

県下公共図書館の現状と課題

近年わが国の公共図書館の動向をみますと、一九六五年から胎動しはじめ、一九七〇年代に入り飛躍的に発展しました。図書館数の伸びはともかく、資料の貸出冊数は爆発的な伸びをみました。このように国民各層が図書館に関心を示しはじめ、生涯学習の拠点として、また、情報資料のセンターとして活用することの有用性が自覚されてきました。

今後ますます増大するであろう国民の期待にこたえて、公共図書館では新しい時代に対応しうる図書館サービスの展開が求められるわけです。

いま県下の公共図書館は

ここ一〇年間の県下公共図書館の躍進はすばらしく、一九七〇年における図書館の数は、県下九二市町村のうち三二で、その設置率が34%であったものが、八〇年に入り五一市町村となり、設置率は55%と増加しました。そして県立図書館も浦和に一館であったものが、熊谷、川越、久喜と四カ所に設置されるに至りました。

また、蔵書冊数についてみれば、

七〇年には八三万冊であったものが七九年には三九四万冊と四倍の伸びを示し、その貸出冊数は七〇年の九八万冊から、七九年には八二二万冊と八倍もの伸びとなりました。これは、全国的にみても上位の実績であり、ちなみに全国平均の蔵書冊数は人口一〇〇人あたり五八冊であるに對し、本県は六五冊となっており、貸出冊数についてみれば、人口一〇〇人あたり全国平均は、一三四冊であるに對して、本県の実績は一五三冊と、いずれも全国平均をしのいでいます。しかしこれでも、欧米の先進国と比較すれば、その足元にも及ばないことは、ユネスコ統計が示しています。

身近なところに図書館を

いま県内には、四一の図書館未設置市町村がありますが、このうちの四自治体では、それにかわる読書施設(公民館図書室)か、あるいは移動図書館の巡回をもつての図書館サービスを実施しています。残る二七の市町村が図書館サービスの空白地域です。この自治体が一日も早く図

書館を設置するか、当面不可能ならば、せめて公民館図書室を運営するなり、移動図書館活動を実施する等の施策を講ずることが望まれます。

また、今後図書館計画を策定するにあたっては、将来を十分に見透しての地域計画に基づく複数館構想、すなわち本館、分館・配本所等の適正な配置と、その空間を埋めるための移動図書館の巡回等を考慮することです。このことによって、地域住民は図書館を身近な存在として受けとめ、日常生活の中に定着することになります。

何んでもまにあう情報資料

図書館では、利用者からのどんな資料要求にも応じられる体制と、「草の根分けても」探し出して提供するといった職員の姿勢がなければ、住民の期待する図書館とはなり得ません。それにはまず、各図書館が自館の収蔵資料の充実に努力することは勿論のこととして、さらには図書館間における資料の相互貸借を制度化することです。また、都道府県立図書館では大量の資料を常備し、市町村図書館からの要求にいつでもこたえ得る体制を確立しておくことです。さらにまた、国立国会図書館からの提供によって、利用者への便を

はかる等のサービスを図ることです。このような体制が確立されることによって、どんな資料要求にも応じられることになります。

だれでも気軽に利用を

生涯学習のための資料提供のはたらきを担う公共図書館は、幼児から高齢者に至るまでのすべての住民が、気軽に利用できるような配慮されなければならぬことは当然のことです。とくに今日的な課題としては障害者への図書館サービスがありま

す。肢体不自由者への配慮としての、施設・設備の改善(段差のスロープ化、自動ドア化等)から、配本車による資料の宅配、郵送貸出し、視力障害者に対しては、点字資料サービス、面接朗読・テープ朗読サービス。そして弱者のための大型活字本や、拡大読書器の配備、そして耳の遠い方への手話サービス等、あらゆる障害者へのサービスを推進しなければなりません。こうすることによってだれにも平等な教育権、学習権を保障することになるのです。

以上のことがらを推進するにあたって、図書館では「いつでも、どこでも、だれでも、なんでも」を合言葉として、あすの図書館をめざして努力して行きたいと存じます。

(県立熊谷図書館斎藤力)

浦和

市民による市民のための歴史づ

くりへ

埼玉県市町村史展
(11・5・9) スケッチ

「こんな本が出版されていたとは知りませんでした。ここをコピーしてもらえますか」

「授業のテキストに格好なものが見つかりました」と小学校の先生。

「よくもこれだけ集まりましたネ」「調べようとしていたことが出ていました。まだ入手できますか」

「あそここの地図に載っている浦和本陣跡に行ってみたいのですが……」これには隣りの老人が、教えてあげましょう、と道案内。

ホールいっぱい並べられた「まち」や「むら」の歴史の資料を前に、なかなか動かない人の影。メモをとる人、ジツクリ読みはじめる人、友だちと頁をめくりながら話題を弾ませる人、親子でうなずき合う光景。そんな三三五五名余の入場者のなかに混って、展示リストを片手にひとわり巡ってみる。

この催しの特色は、歴史を記述する立場のちがいをこえて、私的な試みも公的な試みも意図のちがいがスタイルの多様さも、それなりに表現



浦和市民史展の展示風景

としての歴史への参加の形跡を示すものとして、それぞれ適当な位置を占めていることである。こうしてはじめて、現在各自自治体で着手されている地域史の組織的な編さん刊行の周辺で何が起っているかが判るといふものだ。まず実証的な記述の滲透が目立つ。それを裏付けているのは史料編・調査報告・研究誌などの刊行で、とくに考古・民俗面においては、調査の緊急性にもとづく成果が窺える。次に市民のための通史記述の誕生―浦和のあゆみ、越谷の歴史物語、東松山市歴史寸描などを細く読本としての水準の高さがわかる。また地域への関心から住民が発掘調査に参画した、昔の出来

事を農婦が語ったり、市民のつづる熊谷戦災の記録がまとめられたり、わが町の十五年戦争史として蔵の空襲と戦時下の記録が熟考集大成されるなど、学術的な地方史研究とともに、市民の市民による市民のための市町村史づくり―足元から自分たちの生活史を辿り現在を見据え進路を拓く歴史記述が始まっていることが知れる。歴史を創る主体としての住民の像が出現しつつあるのかとおもう。この動きはまだ僅かではあるが、川口市史古代・中世資料編での訓読解説、所沢市史近世史料編、同地誌の頭注、八潮市史史料編別巻の湖止月報・八潮だより、坂戸市史調査資料坂戸風土記など歴史を今に繋ぐ実証的な試みに見て取れる。索引を備えた岩槻市史近世史料編―児玉南柯日記も新編埼玉県史の各編ともども困難な作業を通じて活用するための条件を一步も二歩も進めてくれている。

こうした各地域からの「語りかけ」を受けとめながら感ずること、読者が歴史づくりに加わる道は、資料がきめ細かく幅広く集められ、公開されて、求めるものをいつでも知ることのできる仕組みが社会的に維持されることの上に築かれる

おしらせ

◇映画会、コンサート

○第二土曜映画会 午後1時30分
12月13日「すいぞくかん」

「お百姓の足、お坊さんの足」「涙なんか飛んでいけ」
1月10日「日本の伝統音楽、琵琶」「縄文土器」「炎よ創れ」
2月14日「ビビの新しい冒険」

○第三土曜レコード・コンサート
午後2時
12月20日「クリスマス特集」
1月17日「邦楽特集」
2月21日「ポップ・クラシックの世界」

◇文化事業の開催

「幼年このびやかな時代」
児童文学作家 神沢利子氏
2月19日(木) 午後1時30分
浦和市民会館8階

熊谷

子どもの本と子どもの読書

◇母親教養講座◇

子どもは、いつもおもしろいことやふしぎなことを想像しながら、生きる喜びを求めています。子どもにとって絵本と友だちになれることは心の内面の成長の上にも、たいへん幸せなことです。そこで文化事業の一環として、地域の幼児をもつ母親を対象に「子どもの本と子どもの読書」という主題で連続五回の教養講座を企画しました。

読者のひろば

教養講座に参加して

講座日程は、六月より毎月一回当館の鑑賞室で開講し、講師には児童文学作家の若山憲先生と秋葉恵子・茨木啓子両先生をお迎えしました。その内容は、若山先生より「わたしと絵本」というテーマで、「こぐまちゃん絵本」との出合いより、い

かにして子どもの心情を育てていくかという創作時の過程や絵本の見かた・読ませかた等についてのお話。また秋葉・茨木両先生より「子どもの読書」「絵本の選択」というテーマで、読書のもつおもしろさ、たのしさ、とりわけ読み聞かせの意義や方法等について、自己の経験をもとに講演を通してお話がありました。教養講座も回を重ねることに、おかあさん方より好評をいただきましたが、十一月には終了する予定です。



(若山 憲先生)

母親教養講座に参加して、先生方の経験豊かなお話をお聞きし、たいへん得るところがありました。私自身あまり本が好きではありませんでしたが、子どもが少しでも本好きになるように努力しました。ですがその方法がつかめなくて悩んでおりました。講座に参加して以来、その悩みもだんだん解決し、今では子どもといっしょにかかわるがわる読書するようになっております。これから残るような本を選び、楽しみたいと思います。

(熊谷市 吉岡とし子)

(熊谷市 鈴木京子)

お知らせ

◇映画会 12時15分から、

1階鑑賞室 12月12日
(金)「スキー特集」
1月9日(金)「歌舞伎の魅力」
2月13日(金)「地震予知」

3月20日(金)「食料を考えろ」

◇子ども映画会 12月20日(土)

午後1時30分から 1階鑑賞室
「西遊記」

◇名作映画鑑賞会 2月21日(土)

午後1時30分から 1階鑑賞室
「真夜中のカウボーイ」

◇フィルムコンサート 1月17日

(土) 午後1時30分から 熊谷市中央公民館大ホール 「ペーリーベンの生涯」「ペーリーベンの冒険」

◇ステレオコンサート 12月15分

から 1階鑑賞室 1月21日(水)
「ダラー・ブランド」

◇ピアノ 3月18日(水)

から 1階鑑賞室 12月17日
「レコードによる芸能鑑賞会」

15分から 1階鑑賞室 12月17日
(水)「津軽三味線/高橋竹山」
2月25日(水)「箏曲選集/宮城道雄」

川越

読みのほなし

図書館における朗読奉仕

いつも目にしている漢字ですが、正確に読もうと思っただけで、なかなか大変なものです。今回は当館の朗読者になったつもりで、次の漢字をちょっと読んでいただきます。

- 一、絢爛豪華
- 二、自ら明ら
- 三、越生町(地名)
- 四、西田幾多郎(人名)
- 五、壊死

いくつくらい読めたでしょうか。やさし過ぎましたか。

さて、この漢字を読んでいたいたのは実は皆さんに朗読の気分を少し味わっていただくと思ってなのです。図書館ではリクエストによって朗読をしていますから、様々な本を朗読することになります。当館の場合では専門的な図書が多いので、いきおい見慣れない漢字が出てきます。目で追う場合は正しい読みを知らなくても意味はわかりますが、朗読では曖昧な読みをするに聞いている利用者(障害者)の方にはそれがわかりませんから、そのま

ま受入れてしまいます。だからこそ、正確な読みが要求されるのです。

漢字の読みだけでなく、アクセントも同じです。例えば「橋・箸・端」の三つとも音は「ハシ」ですが、アクセントによって違ってきます。利用者は「ハシ」が「橋」なのか「箸」なのかをアクセントと文の前後関係により知ります。間違ったアクセント

利用者の求める知識・情報の充実と提供に努めてきた当館では、このたび、更に積極的な資料活用を願って、貸出閲覧室に約七千五百冊を収蔵する書架を増設しました。

書架を増設しました

めめることは、同時にその質を保障する量を保証していくことでもあり、これが近年の著しい出版量の増加と係わって、在来書架スペースでは、多様化した情報資料を求める住民の要望に答えられないという状態となり、このために書架増設が検討され、今回がその第一回となった訳

トで読むと利用者はその字が書いてあると思いますし、意味も違ってくると思います。

どうでしょうか、今まで朗読奉仕に持っていたイメージが少し変わったのではありませんか。もちろん、よい朗読は必要ですが、それらも正確さが前提です。特に図書館朗読では、希望の図書の内容を誤りなく利用者に伝えるということが根本原則なのです。

漢字の読みを通して、朗読奉仕業務のほんの一部を紹介しました。これを機として、図書館における朗

この結果、貸出閲覧室では約五万冊の本が、直接手にとって利用できることになり、参考調査室の二万五千冊と共に皆様の利用を待っています。

開館五年にして、すでに書架増設をみたという事は、反面、この間の図書館に対する住民の関心の高まりや、全体的な図書館活動伸長を物語っているようにも思えます。当館ではこれを機会に、今後更に役いた図書館としての活動を展開してまいります。

読奉仕業務を是非知っていただきたいと思っています。(解答 一、ケンラ、二、オノツカラアキラカ、三、オゴセマチ、四、ニシダ、キタ、五、エシ)

映画会

★映画の集い

記録映画を見る12月6日(土) 午前10時・午後2時の二回

★お知らせ

★新着フィルム映画会

12月11日(木)・12日(金) 午後2時 (11日)「ある青春・身体障害者雇用促進のために」「茶のはなし」「これからのエネルギー源」(12日)「奥の細道」「敦煌の芸術」「動物の行動をさぐる」

★冬休み子ども映画会

12月25日(木)・26日(金)、午前10時・午後2時の二回 (25日)「あいうえお」他 (26日)「ぼくとギターとおじいちゃん」他
★レコードコンサート 12月20日(土)午後2時 交響曲第九番「合唱」(ベートーベン)
県立川越図書館視聴覚ホール

久喜

軌道にのる

児童奉仕ボランティア養成事業

子どもの読書普及運動が市町村のすみずみにまで浸透するよう、児童奉仕ボランティアリーダーの養成をはかり、地域児童文化の振興に資することを目的に、久喜図書館では今年度から前期後期二回に分けて講座を開始しました。

講座の内容は、児童心理、子どもの本の選び方、ストーリー・テリング、本の読み聞かせ、紙芝居、人形劇、室内遊戯などで、実践的な研修をめざしています。

第一回講座は六月から九月にかけて久喜図書館を会場に、第二回目は十一月から来春三月までの間に八回越谷市立福祉センターを会場として行われます。

講師には、東京おはなしキャラバンセンター評議員で、千葉県松戸市立図書館児童奉仕専門員の浜島代志子氏をお願いしています。

第一回の講座終了生によって、人形劇の舞台作り、人形作りなども進められ、十一月一日の開講式にはその発表会も行われました。これらボ

ランティニアの方々を中心とした、地元での今後の活動が大いに期待されます。

※好評を博した人形劇の上演

久喜図書館児童奉仕ボランティア養成講座受講生の研修をかねて、大



(大正大学児童研究部の人形劇上演)

(人形劇を見る子どもたち)



正大学児童研究部のメンバーによる人形劇の会は、九月七日(日曜日)午前、午後の二回、久喜図書館の集会室に大勢の子どもたちを集めて開催されました。

東京の祐天寺日曜学校を中心にボランティア活動を続けているメンバーの方々が六人、さまざまなゲーム遊びやパネルシアター、人形劇などを次々に展開して、集まった子どもたちを大いにたのしませた一日でした。

※森山周一郎氏を迎えて

映画と音楽鑑賞の集い
「刑事コジャック」のテリー・サバラスや、ジャン・ギャバンのアテレコ(声の吹き替え)などで知られる俳優、森山周一郎氏は現在久喜市にお住まいです。氏は劇団「東芸」に所属し、本公演を中心にテレビ、ラジオなどあらゆる分野に活躍しておられます。

九月六日(土)午後、この森山周一郎氏をお招きして、「映画・音楽アラカルト」と題してお話をうかがいました。氏の精通する芸能界のよもやま話という感じで、たのしいひとときでした。

この日の名画鑑賞は「父ちゃんのボ」が聞える」で、午前・午後二回上映されて好評を博しました。

◆お知らせ◆

おはなし会 3階児童読書相談室
毎月最終金曜日、午後3時から3時半まで

映画会 毎月3回
レコード・コンサート ポピュラークラシック 毎月各1回

※くわしいことは電話等でお問い合わせください。(電話〇四八〇一一二六五九)

県内図書館めぐり

所沢市立所沢図書館

もと所沢飛行場跡の所沢航空記念公園の一角に、地上三階、地下一階、延床面積約三、四八一㎡の独立図書館として、本年五月にオープンしました。これは、いままで市立文化会館に併設されていた図書館が市民の要求に対応しきれなくなったため、市の将来の展望の中で新たに所沢市の図書館活動の中核となる図書館の建設が望まれ、総工費約七億二千万円をもって完成したものです。

新館は、一階に児童室やお話会室・新聞コーナー・対面朗読室などのほか館外奉仕室や車庫があり、二階にはワンフロアの一般室と相談コーナー、別に事務室等があります。また、三階は参考図書室(二二席)、読書室(九〇席)、集会室・会議室と個人試験室(一〇席)があります。なお一階から三階を通して約一五万冊収容できる書庫が設けられています。



所沢市所沢図書館
住所 所沢市大字所沢500
電話 0429-95-6311

蔵書数は現在、移動図書館用、分館用を合わせて約一九万冊、利用状況は五月オープンから八月末までの四ヶ月間で、利用登録者数約二万三千人、利用冊数約一八万冊に達しています。

なお、図書の管理、運用にはオンライン・リアル処理方式によるコンピュータシステムを採用し、機能的な資料管理と運用によるサービスの向上を図っています。

また、新館開設に伴い再出発した分館や移動図書館、団体配本車などによる地域サービスの向上や、地域の読書活動の推進にも努めるとともに、対面朗読を中心とした障害者サービスの充実を図ることに努めています。

関東地区公共図書館

協議会整理部門研究集会

9月18・19の両日、山梨県甲府市で関東地区公共図書館協議会整理部門研究集会が、二〇余名の参加者を集めて開かれました。

今回のテーマは、(1)図書の委託整理(2)県立図書館における資料収集(3)特殊コレクションの扱いの三点で、いずれも今日の図書館が直面している問題です。なかでも埼玉県立図書館にとっては(1)と(2)が共通的な問題として重要さを増しています。

委託については、今回の集会では新設図書館が開館までの短かい準備期間に大量の図書を整理しなければならぬ場合、とても職員だけでは間に合わないが、一部を外部に委託せざるを得ないのが……。というところからその是非を問題にし、協議においては図書館業務はすべて館員があたることが本来であるが、そうした制約下では委託も止むを得ないだろうというのが大方の意見でした。いま、図書館の周辺にはそうした委託にとどまらず、館全体の管理運営までも含めた委託化という問題も生じており、十分注目しておきたいところです。

つぎに資料収集の問題ですが、これは近年の市町村図書館の隆盛にもない県立図書館は二次サービスに徹すべき時期に差しかかっており、資料もそれに則した収集がはかられるべきでその方針の策定など検討すべきいくつかの課題が提起されました。埼玉の場合、前提条件となる市町村図書館の整備状況に地域格差が大きいというため、全県的な問題として統一的にとらえられない面があります。が、それをふまえた上で少しずつ解決をはかっていくべきでしょう。

問題解決への糸口と、さらに大きな問題への端緒を提示してくれた研究集会でした。



◇……………◇



雑誌の復刻版

このところ、雑誌の復刻版の刊行が目につきます。

厳密には「本」ではありませんが、今回は川越図書館が所蔵するものの中から、六三点を紹介いたします。大正十年に刊行され、島や海への関心を高めた民俗学文献「島」など珍しいものがあります。

- アイヌ研究 1号〜4号 みやま書房
- 昭47 (日本アイヌ学会、大6〜7)
- あふひ 1号〜5号 ゆまに書房 昭5
- (葵文会 明43)
- 赤い鳥 1巻1号〜22巻3号、1巻1号〜12巻3号 日本近代文学館
- 昭43 (赤い鳥社 大7〜昭4、昭6〜11)
- 赤と黒 1巻〜4巻 戦旗復刻版刊行会
- 昭53 (赤と黒社 大12〜13)
- 明かるい学校・あかるい教育 教育史料出版会 昭50
- 明かるい学校 1号〜7号 あかるい教育 1号〜13号 (民主主義教育研究会 昭21〜23、昭23〜24)
- 馬酔木 1巻1号〜4巻3号 臨川書店

- 昭47 (根岸短歌会 明36〜41)
- アララギ 1巻1号〜19巻12号 教育出版センター 昭50 (アララギ発行所 明41〜大15)
- 江戸時代文化 1巻1号〜5巻12号 ゆまに書房 昭53 (江戸時代文化研究会 昭2〜6)
- エネルギーと公害 1号〜502号 エネルギージャナル社 (エネルギージャーナル社 昭43〜53)
- 大崎学報 1号〜120号 敬南堂 昭50 (立正大学仏教学会 明37〜昭40)
- 雄鶏通信 世界の文化ニュース 1巻1号〜2巻13号 雄鶏社 (雄鶏社 昭20〜21)
- 我楽多文庫 1号〜16号 白帝社 昭42 (硯友社 明21〜22)
- 救済研究 1巻1号〜10巻7号 文京出版 昭50 (救済事業研究会 大2〜11)
- 旧幕府 1巻1号〜5巻7号 原書房 昭46 (富山房・装華房・旧幕府雑誌社 明30〜34)
- 郷土研究 1巻1号〜7巻7号 名著出版 昭50〜51 (郷土研究社 大2〜昭9)
- クロボトキンを中心にした芸術の研究 1号〜4号 戦旗復刻版刊行会 昭53 (萩原恭三郎 昭7)
- 厚生事業研究 31巻1号〜32巻1号 厚生事業研究 昭3〜6)
- 文京出版 昭52 (大阪府厚生事業協会 昭18〜19)
- 高潮 1号〜6号 ゆまに書房 昭51 (吉川弘文館 明39)
- 行動 1巻1号〜3巻9号 臨川書店 昭49 (紀伊国屋 昭8〜10)
- 産業組合 1号〜455号 日本経済評論社 昭52〜54 (産業組合中央会 明38〜昭18)
- 三曲 1巻1号〜34巻5号 日本音楽社 昭51〜53 (美妙社 大10〜昭19)
- 詩歌 1巻1号〜8巻10号 教育出版センター 昭53 (白日社 明44〜大7)
- 詩・現実 1冊〜5冊 教育出版センター 昭54 (武蔵野書院 昭5〜6)
- 詩行動 1号〜7号 戦旗復刻版刊行会 昭54 (詩の仲間社 昭10)
- 詩人 3巻1号〜10号 戦旗復刻版刊行会 昭54 (文学案内社 昭11)
- 詩精神 1巻1号〜2巻10号 戦旗復刻版刊行会 昭53 (前奏社 昭9〜10)
- 児童研究 1巻1号〜41巻12号 第一書房 昭54〜55 (教育研究所 明32〜昭18)
- 詩と詩論 1冊〜14冊 教育出版センター 昭54 (厚生閣書店 昭3〜6)
- 島 1巻1号〜昭和9年前期号 名著出版 (一誠堂 昭8〜9)
- 社会事業研究 10巻8号〜30巻12号 文京出版 昭51〜52 (大阪府厚生事業協会 大11〜昭17)
- 社会政策時報 1号〜294号 原書房 昭54 (協同会 大9〜昭21)
- 自由党党報 1巻1号〜10巻158号 柏書房 昭54 (自由党党報局 明24〜31)
- 少年戦旗 昭和4年11月号〜6年10月号 戦旗復刻版刊行会 昭52 (戦旗社 昭4〜6)
- 白樺 1巻1号〜14巻8号 臨川書店 昭44〜47 (洛陽社 明43〜大12)
- スバル 1年1号〜5年12号 臨川書店 昭40 (昂発行所 明42〜大2)
- 生活学校 1935年1月号〜1949年6月号 教育史料出版会 昭54〜55 (扶桑閣・敬南堂書店 昭10〜24)
- 政友 1号〜143号 柏書房 昭55 (立憲政友会 明33〜45)
- 生理 1号〜5号 冬至書房新社 昭54 (椎の木社 昭8〜10)
- 戦旗 1巻1号〜4巻10号 戦旗復刻版刊行会 昭51〜52 (全日本無産者芸術連盟・戦旗社 昭3〜6)
- 大日本貨幣研究会雑誌 1号〜45号 第一書房 昭54 (大日本貨幣研究会 明30〜37)

おたすねください

国民総背番号制とは？

問 最近よく耳にする「国民総背番号制」とは何でしょうか。

答 官庁用語では、「事務処理用各省庁統一個人コード」といいます。これは、国民ひとりひとりに認識番号をつけてコンピュータで事務処理を行うという構想で、総理府の国勢調査、運輸省にある自動車登録、厚生省のもつ各種年金、保険といった個人データを一体化しようとするものを皮膚の色、犯罪歴、病歴、テス

す。現在、こうした構想は各自治体で進められており、住民基本台帳のコンピュータ処理と共に、保険・年金・税務等の項目が個人コードで統一され、住民の個人データが集中化されつつあります。これにより一方では、事務の合理化、住民状態の把握が容易になると言われています。しかし、他方、コンピュータ化先進国アメリカ、カリフォルニア州で、住民ひとりひとりに関して、身元、経歴から、津川敬・鈴木茂治 拓植書房

資料 「国民総背番号体制」高見圭司他 三一新書 「番号化社会」青野忠男 日経新書「くたばれコンピュータ」津川敬・鈴木茂治 拓植書房

編集後記

冷夏の後に秋冷が駆足で訪れた。今年度二回目の図書館だよりも、年間事業の山場の中で発行となった。編集もほっと一息だ。この山場の事業を回想するのも意義ありというわけで、本を読む県民のつどい「移動図書館30周年」等記録した。また地方の時代を迎えて、市町村史の展示会をひらいたが、限定された期間だったので、盛況の日々をふりかえってみた。図書館法も施行以来30年、将来に向けて大いに羽ばたけというので、「あすの図書館をめざして」というコクのある原稿を掲載でき感謝でいっぱい。その他お知らせもたっぷり、皆様の一層のご利用を期待する次第。

- 旅と伝説 1巻1号〜17巻1号 岩崎美術社 昭51〜52 (三元社 昭3〜19)
- 弾道 1巻1号〜2巻2号 戦旗復刻版刊行会 昭53 (弾道社 昭5〜6)
- 中央農事報 1号〜128号 日本経済評論社 昭53 (全国農事会 昭3〜43)
- 綴方生活 1巻〜15巻 けやき書房 昭52〜54 (東京文庫社・東京モナス 昭4〜13)
- 伝記 1巻1号〜11巻2号 広文庫 昭50 (南光社・伝記学会 昭9〜19)
- 同方会誌 2巻16号〜10巻65号 風俗画報 昭48 (同方会 昭33〜昭16)
- 立休社 昭52 (同方会 昭33〜昭16)
- 同方会報告 1巻1号〜2巻15号 立休社 昭52 (同方会 昭29〜33)
- 土俗と伝説 1号〜4号 名著出版 昭54 (文武堂 昭7〜8)
- ドルメン 1号〜41号、再刊1号〜5巻7号 国書刊行会 昭51 (岡書院 昭7〜10、昭13〜14)
- ナッパ 昭和5年9月号〜6年11月号 戦旗復刻版刊行会 昭53 (戦旗社 昭5〜6)
- 日本浪曼派 1巻1号〜4巻3号 雄松堂書店 昭46 (武蔵野書院・西東書林 昭10〜13)
- 風俗研究 1号〜244号 清文堂出版 (風俗研究会 大5〜昭17)
- プロレタリア詩 1巻1号〜2巻2号 戦旗復刻版刊行会 昭53 (プロレタリア詩社・プロレタリア詩人会 昭6〜7)
- プロレタリア文学 1巻1号〜2巻6号 日本近代文学館 昭47 (日本プロレタリア作家同盟 昭7〜8)
- 文庫 17号〜27号 白帝社 昭42 (硯友社 昭22)
- 満鉄調査月報 昭和6年〜19年 開明書院 昭53 (満鉄調査部 昭6〜9)
- 明星 1号〜1000号 臨川書店 昭39 (新詩社 昭34〜41)
- 民間伝承 1巻1号〜16巻12号 国書刊行会 昭50 (日本民俗学会 昭10〜27)
- 昔話研究 1号〜24号 岩崎美術社 昭55 (三元社 昭10〜12)
- 明六雑誌 1号〜43号 立休社 昭51 (明六社 昭7〜8)
- 唯物論研究 1号〜73号 青木書店 昭47 (木星書院・唯物論研究会 昭7〜13)
- 立憲改進黨党報 1号〜56号 柏書房 昭54 (立憲改進黨党報局 昭25〜29)